

令和5年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から	
重点課題	子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保	
事業名	推進方法	評価
通学路安全確保事業	<ul style="list-style-type: none"> ・下多度小学校、PTAなどと協力し、通学路の安全点検を継続し、通学路の安全確保を図る。 ・スクールガードボランティアによる、下校時の見守り活動を継続する。 ・第1・第3水曜日を基準に、下多度小学校と調整して、月2回実施する。 	○
現状及び今後の方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガードボランティアの活動により、交通事故防止と犯罪防止の抑止力として機能していると思われる。 ・県内における下校中の子どもに対する不審者の声かけ、つきまとい、身体に触られるなどの事案が発生しており、次年度以降も交通事故や不審者に対する抑止力としての活動を継続する。 		
重点課題	子どもの、自然保護や障がい者に対する理解の深耕	
事業名	推進方法	評価
子どもの活動を豊かにする事業	<ul style="list-style-type: none"> ・外来魚の駆除と、貴重生物の保護活動 6月 ・寺院を利用した歴史の学習と講話、及び縁日 7月 ・障がいのある人たちの理解と交流会、及び障がい者スポーツ体験 10月 	○
現状及び今後の方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・どの活動とも大勢の、子どもたちや保護者の参加があった。 ・今後もこの活動を続けて欲しいと、保護者から要望があった。 特に外来魚の駆除作業は、なかなか体験できないことから、来年度も続けて欲しいとの声が多く寄せられた。 		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から	
重点課題	高齢者の買い物や通院の手段がない	
事業名	推進方法	評価
高齢者移送サービス事業	<ul style="list-style-type: none"> ・従来から進めている高齢者移送サービス事業を、協力会員の無理のない範囲で、継続実施する。 ・引き続き、協力会員の募集を行う。 ・利用会員の相互の連携を図り、相乗り等効率的な運行を考える。 ・運行範囲を近隣に限定して、長続きさせる方法を模索する。 	○
現状及び今後の方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉利用目的の事業であり、利用者は生活に必要な目的に利用を心がけてもらうとともに、公共交通機関利用を最優先に安易な利用を控えてもらう。 ・協力会員相互の連携を図り、負荷の平準化を図る。 		
重点課題	高齢者の生活支援ニーズが多岐にわたり拡大している	
事業名	推進方法	評価
生活支援「ちょこっとお手伝い」事業	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の資格がなくてもできる「ちょこっとお手伝い」で、高齢者に寄り添う生活支援を行う。 	○
現状及び今後の方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・気心の知れた間柄を構築し、気兼ねなく利用してもらえるよう努める。 		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から	
重点課題	①住民同士の交流機会が少ない ②高齢者の交流する機会が減少している	
事業名	推進方法	評価
しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）	1) 地域交流会の開催：『しもたどフェスティバル』の開催 2) 開催日：令和5年 8月13日（日曜日）に開催を計画 3) 会場：プラザしもたど （駐車場前面十コミュニティセンター含む全館） 4) しもたどフェスティバル実行委員会に加わり、新型コロナウイルス感染対策も含めた部会活動の実施 ①『ぬり絵』を企画して実施する。 ②新規イベントを企画して実施する。 5) 自治会・中学校・小学校等に、協力を要請する。 6) 中学生・小学生等、各種団体・個人へ参加・協力を募る。 7) 新型コロナウイルス感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会等の関係者と相談して実施する。	○
現状及び今後の方針		
<ul style="list-style-type: none"> ぬり絵参加者は、下多度小学生だけでなく近隣小学生の参加や、中学生の参加が増加した。 従来のぬり絵・ストラックアウト等の継続、新企画、射的・輪投げ・遊具設置の開設ができた。 参加者の景品取得の偏りを、次回以降平準化する検討が必要である。 協力中学生のイベント担当の、ローテーション化を検討する。 70～80歳の高齢者の参加があり、交流する場面も多く見られた。 		
重点課題	大規模災害に対する備えの大切さの周知	
事業名	推進方法	評価
啓発活動による防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化	○啓発活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> 防災かわら版→今まで発行したもの振り返り、今後のテーマを決める。 防災パネル→昨年、自治会所有のゴミステーションに設置した防災パネルの防災ポスターを更新する。 （概ね6か月ごと） 研修会の開催 ○自主防災組織への働きかけと提案 ○避難所の開設、運営方法の勉強会	○
現状及び今後の方針		
防災意識の高揚と各家庭の備えの強化をもう一步進めるには、自主防災組織との協働が必要であり、現状の課題である。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和5年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から	
重点課題	高齢者の交流機会が少ない	
事業名	推進方法	評価
しもたどサロンの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・下多度地区全体を対象とする「しもたどサロン」を開催する。 (時期未定) ・地域の多くの高齢者の集いの場となるように「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて実施する。 ・自治会区域で行われているサロンを通じて、広く呼びかけを行う。 ・会場までの交通手段は、ひとりでも多く参加者を増やすべく、バスの利用も検討する。 ・新型コロナウィルス感染症は、第2類から第5類に変更されるが、流行が確実に収まるとは限らないので、慎重に判断したい。 ※開催する場合 マスクの着用、手指の消毒等、開催時期の感染状況を勘案しながら、コロナウィルスへの感染リスクを、極力少なくできるよう対策を講じて実施する。 ・できれば食事も皆で一緒にとりたいが、場合によっては弁当の持ち帰りも検討する。 ・新型コロナウィルス感染症の感染拡大が懸念される場合は、規模を縮小して訪問型とし、ひとり暮らし高齢者宅を訪問、安否確認を兼ねて生活必需品の配付などを実施したい。 	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった